

事後評価報告書(日南ア研究交流)

1. 研究課題名:「熱帯マラリア原虫(*Plasmodium falciparum*)の小胞体に局在する Hsp40 シャペロン Pfj2 の機能解析」

2. 研究代表者名:

2-1. 日本側研究代表者:京都産業大学総合生命科学部 教授 永田 和宏

2-2. 南アフリカ側研究代表者:ローズ大学 理学部

教授 Gregory Lloyd Blatch (現ビクトリア大学 健康・工学・理学部 教授)

3. 総合評価:(B)

4. 事後評価結果

(1)研究成果の評価について

3大感染症の一つであるマラリアに関し、病原体であるマラリア原虫の分子シャペロンに関し、小胞体の基礎研究およびマラリア原虫におけるタンパク質の品質管理において、それぞれ高い研究レベルにある日本側と南アフリカ側の共同研究が質の高い成果を生み出した点は評価できる。今後、薬剤標的の観点から、マラリアの制圧にこの成果がどのように活かされるのかがポイントとなるだろう。

(2)交流成果の評価について

南アフリカで精製した Pfj2 タンパク質の酸化還元機能を日本のグループが解析する等、共同研究が効果的に進められた。また、南アフリカ側の大学院生が日本側研究室に一ヶ月半滞在し、実験技術を学び、その技術が南アフリカ側の研究に活かされて成果がでたことは高く評価できる。一方で、派遣人数が少なかった点は惜まれる。

(3)その他(研究体制、成果の発表、成果の展開等)

国際交流では、生物資源を有する相手国側と日本側との応用分野における交流のケースが多いが、本研究のような基礎研究における交流において成果がでていることの意義は大きい。このような共同研究の成果は共著論文として公表することが強く望まれる。